

柴田小学校と千鳥小学校及び白水小学校の統合について

説明会の会場やアンケートでいただいたご意見・ご質問と、教育委員会の考え方をまとめた資料です。
類似する内容はまとめ、一部要約または分割して掲載しておりますので、ご了承ください。

1 統合の方針

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	私たちの時代は非常に多くの同級生がおり、今でも交流があります。こうした多くの友だちづくりができる環境づくりをはじめとして、子ども中心に考えていってほしいです。	児童数が多かった昭和54年において、柴田小学校は15クラス、千鳥小学校は19クラス、白水小学校は19クラスありました。 今の子どもたちにとっても、クラス替えができる望ましい学校規模を確保するため、取り組みを進めてまいりたいと考えています。
2	必ずしも望ましい規模の学校がよいとは思えません。	子どもの数が少ない小規模校では、学校行事ですべての子どもに活動の場を与えやすい点、一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすい点などの良い面があります。 しかし、クラス替えができないことにより、人間関係が6年間固定化してしまう点、トラブルがあった際も環境を変えることが困難な点、子ども同士が切磋琢磨するような教育活動ができない点のほか、学校行事や多人数で行うスポーツ等に制約が出てしまう点などの課題があります。 統合により、クラス替えができる望ましい規模を確保することで、こうした課題を解消していきたいと考え、取り組みを進めていますので、何卒ご理解をいただきたく存じます。
3	取り組みの進め方には5段階のステップがあり、今はステップ3までできていると思いますが、これまでの取り組みで、ステップの途中で取り止めにってしまった事例はありましたか。 この3校の統合がなくなるという可能性はゼロと考えていいですか。	令和元年度以降「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」に基づいて統合の取り組みを進めてきています。まだ統合決定まで至らず、地域の方等と協議を継続中の事例はございますが、取り止めにになった事例はございません。 説明会の資料においても、令和13年4月から新校舎へ通学するという想定をお示ししており、延期や取り止めとなる場合、3学区の子どもたち一人一人に影響があるため、丁寧に説明させていただきながら、しっかり進めていきたいと考えています。
4	何年も先の話にはなりますが、自分の子どもがこの新しい学校に通う可能性もありますので、楽しみにしています。	統合校が、未来の子どもたちにとって良い学校となるよう、新しい時代の学びに対応した施設整備などについて、地域や保護者のみなさまとも協議しながら、学校づくりに取り組んでいきたいと思っています。

5	小学校よりも中学校の方が1クラスの人数は多いと思います。そうすると、統合校でクラス替えができる規模になっても、そのままのメンバーが中学校に上がって、さらに少子化も進んでいくと、中学校がクラス替えができない規模になるという可能性はあるのでしょうか。	名古屋市における1クラスの人数上限は、小学校1～2年生は30人、3～6年生は35人、中学校1年生は35人、2～3年生は40人です。 例えば、36人～39人の学年であれば、中学校2年生からは1クラスになりますが、名南中学校ブロックの児童・生徒数の推計を見ると、統合以後も当面の間は、クラス替えができる規模が継続できるものと考えています。
---	--	---

2 通学の安心・安全

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	通学路については、地域説明会より前に協議しておくことで、保護者は安心するのではないのでしょうか。	通学路の検討にあたっては、通学路の候補となるルートを整理し、地域の方、保護者の方、学校にご協力いただいたうえで実際に歩いて危険箇所の確認等を行い、具体的なルートや安全対策を検討していきます。統合決定前に関係者の方々にこうしたご協力をお願いし、ご負担をおかけすることは難しいと考えていますので、統合の決定後にしっかりと検討を進めてまいります。
2	統合に伴って、通学が長時間かつ長距離になる子どももいるため、具体的な対策を示してほしいです。 こども110番の家など、危ないときにここに行けばよいという場所が学区内のどこにあるというのが具体的に示されていません。	こども110番の家や指定避難所の場所について、おたより（詳報）の別紙として添付いたしました。 なお、他の統合事例では、統合校の開校に向けて、地域内で事故等に注意した方がよい場所やこども110番の家、津波避難ビルなどを表示した「子ども安全マップ」を作成して、子どもや地域に配布する取り組みを行っていますので、同様の取り組みを検討してまいります。
3	通学時、ランドセルが重いと思うので、子どもの荷物を減らすことはできないのでしょうか。	登下校時の荷物の量を可能な限り減らすことは、疲労や熱中症への対策として有効と考えています。現在、各学校では、教科書を学校に置いていくいわゆる「置き勉」などにより登下校時の荷物を少なくする取り組みを行っていますので、引き続き取り組んでいければと思います。
4	熱中症対策として、日傘や保冷剤などの対策はすぐにできるのではないのでしょうか。	日傘や、首を冷やすタオルやリング等の冷却グッズについて、学校では現在も使用を禁止とはしていませんので、暑い時期はご利用いただくことで、熱中症のリスク軽減につながると考えています。

5	スクールバスでの通学について、1つの選択肢として考えてほしいです。 また、市バスの回送バスが通っているのので利用できないでしょうか。	市内では、2 km を超えて徒歩で通学している小学校もあることから、最長通学距離が1.7 km の見込みであるこの統合案において、特別にスクールバスの導入、回送バスの利用を行うことは非常に難しいと考えます。他の対策により、交通事故や熱中症のリスクを軽減するよう努めてまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。
6	通学時に付いて来てくれる通学支援員はいると安心します。できれば、登校時も下校時もいてくれるとよいと思います。	ご意見を踏まえまして、登校時及び下校時の通学支援員を雇用できるよう、予算措置や募集に取り組ませていただきます。
7	児童が少ない分団であり、一人で帰ることになるかもしれないので心配です。また、分団の児童が減っていくと、将来的にどこかの分団と一緒にするのはないかと思っていますので、通学路の検討にあたっては、分団の集合場所に関しても考えていただけたらと思います。	例えば、できるだけ同じ時間に同じ方面へ帰る方面別下校という対応が可能と考えています。 また、登校時については、最初は少ない人数で集まり、次の分団の集合場所まで行ったらその分団と一緒にになり、一定程度の大きい分団になって登校していくといった対応も他校では取られています。 これまでの統合校では、統合の前年度に、新しい通学路となる予定のルートを親子で長期休暇中に歩いていただいたり、学校主体で登下校の練習をしたりしています。こうした検討を経て、適切な通学路を設定していきたいと考えています。
8	説明会を聞いていて、まだ不安が払拭されていないと感じます。新聞記事では、小学校での冷凍庫の配備などが載っていました。新しい案はないのでしょうか。	通学の安心・安全について、市内の学校で取り組んでいる多様な事例を参考に、この3校に合った形に改善しながら取り入れていくだけでなく、例えば、ご意見いただきました冷凍庫の配備のような、これまで取り入れていなかった新たな対応ができないか、検討を進めてまいります。

3 新しい学校づくり

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	令和8～9年度に新しい学校づくり懇談会で協議していくという説明がありましたが、どういった方々が参加する会なのでしょう。	3学区における地域の代表の方、保護者の代表の方、学校と教育委員会が参加する予定で考えています。

2	学区内を見ていると、具体的に危険と感じる場所があります。統合前に、通学の安全に関して地域を交えて検討をしてほしいです。	統合前の約2年間で行う新しい学校づくり懇談会にて、地域の代表の方などと共に、具体的な通学路や通学の安全対策などについて協議させていただきます。なお、懇談会の検討内容はおたよりという形で周知させていただきます。
3	校名や校章については、全く新しいものというよりは、3つの小学校の名残があるものや、歴史的な観点も踏まえたものになるとよいかと思います。	新しい学校づくり懇談会にて、いただいたご意見を踏まえながら、校名や校章の検討を進めていきたいと思っています。

4 東西校舎に分かれての運営

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	東西校舎に分かれるときのクラス分けは、元の学校は関係なく編成しますか。また、先生は新しい先生ばかりになるのでしょうか。	東西校舎に分かれるときは、どの学区出身の子どもも、白水区の子どもも、安心して学校生活がスタートできることが大事だと考えますので、学区ごとで偏ることなく、バランスよくクラス編成することを想定しています。 また、東西校舎に分かれたとき、新校舎ができたときに、知っている先生が誰もいないのは子どもにとって心の負担が大きくなると考えます。統合前の先生がバランスよく配置されるなど子どもたちが安心できるような人事配置を検討していきたいと考えています。
2	白水区の子どもは原則として東校舎ということですが、西校舎を選択すると、分団ではなく個人での通学となりますか。	白水区の子どもが西校舎へ通学する場合の分団編成については、具体的な通学路の検討と、西校舎への通学希望調査の状況を踏まえ、整理させていただきます。 整理にあたっては、可能な限り一人で歩く距離が短くなるよう、他の分団と合流できる場所はないか等を勘案して検討していきます。
3	新校舎が完成したとき、もともと白水区と千鳥学区の子どもたちのコミュニティができているところに、後から柴田学区の子どもたちが入ることになると、コミュニティの再形成がきちんとできるのか心配です。	これまでの統合校では、統合前に、学年ごとにレクリエーションをしたり、5年生では中津川野外学習に出掛けたりといった交流活動を行っています。 また、令和8年度に統合する学校では、交流活動を実施前に、スクールカウンセラーが講師となり、新しい友達とどのようにしたら仲良くなれるかという授業を行っています。 こうした例を参考にしながら、東西校舎に分かれるとき、新校舎に集まるときの両方で、子どもたちが安心して新しい生活に馴染めるような取り組みを行っています。

4	令和10～12年度で、白水学区の子どもが東校舎に通い始めた後に、何らかの事情により、西校舎の方へ通学先を変更することは可能でしょうか。	自由に通学先の変更ができる取り扱いとした場合、混乱をきたす可能性がありますので、個々の事情に照らして検討していくことになると考えています。例えば、柴田学区へ転居した場合は、通学先を東校舎から西校舎へ変更することが可能と考えています。
5	例えば、令和9年度入学する白水学区の子どもは、2年生からは通学先が原則として東校舎になると思いますが、たった1年で通学先が変わるのは、子どもの心への負担が大きいと思います。また、千鳥小学校の方が近い家庭では、白水小学校の方へ通うのは通学上の負担もあるので、令和9年度の入学時から千鳥小学校への通学を選択できるようになりませんか。	名古屋市小学校は、通学区域が決められており、住所ごとに通学する学校を定めていますので、原則として、定められた学校に通学していただくこととなります。 統合校（東西校舎）の開校前での特例的な通学先変更の可否については、今後検討させていただき、あらためて保護者のみなさまにお知らせさせていただきます。 なお、通学先の変更等による子どもたちの不安に対する心のケアについては、スクールカウンセラーの増員などで対応に努めてまいります。

5 施設整備

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	工事については3年という説明でしたが、実際それくらいかかるものでしょうか。また、最近建築資材の不足等の状況がありますが、工事期間が延びた場合はどのようになりますか。	現在の白水小学校の校舎等を取り壊した後に建築をするという計画で、約3年かかる予定となっています。 昨今、原材料不足や人材不足等による入札不調といった課題がございますが、工事期間が延長とならないよう、しっかり対策を取っていきたいと考えています。
2	白水小学校の場所で統合するのは、3学区の真ん中だからということでよいと思いますが、新校舎を建てる理由は何でしょうか。	現在の白水小学校の教室数では、3校の児童が集まった場合に教室数が不足するため、建て替えによって教室数を増やすという目的があります。 また、施設の老朽化が進む中、新しい校舎を建てることで、子どもたちの教育環境をより良くしていきたいという理由もございます。
3	白水小学校に新校舎を建設した場合、十分な広さの校舎と運動場等の施設が確保できる面積があると思いませんか。	敷地面積は、3校の中で白水小学校が最大です。また、統合後の教室数が確保できる大きさの校舎を建てる場合の検討も行っており、十分な面積があることが確認できています。 今後、新校舎の設計を進めていくなかで、最適な校舎配置などを検討してまいります。

4	白水小学校の場所で3年間ほど工事をすると思いますが、その間の避難所はどのようにになりますか。	敷地全面を使つての建て替え工事を行いますので、工事期間中は指定避難所や指定緊急避難場所としての利用ができなくなります。工事期間中に白水小学校周辺の方が避難する場所については、工事が始まるまでに対応を検討のうえ、地域のみなさまへお知らせいたします。
5	跡地となる柴田小学校と千鳥小学校、白水小学校の場所にできる統合校は、日常的な利用だけでなく、避難所としての利用もあると思うので、体育館の空調はしっかりと整備してもらいたいです。	本市の小学校の体育館空調については、令和6年度から令和10年度にかけて順次設置工事を行っております。柴田小学校、千鳥小学校については、全体の計画の中で整備を検討してまいります。 なお、白水小学校の場所に建てる予定の新校舎は、竣工当初から体育館空調を整備します。
6	学校に迎えに行く際、車で行くとなかなか駐車ができません。敷地内に駐車スペースを設けてもらったり、学校の周囲を駐車禁止ではないようにしたりといった対応をしてもらえると助かります。	学校の敷地は限られていますので、その中でどのような配置ができるのか検討させていただきたいと思います。 また、駐車禁止については、解除できる可能性があるか、関係機関へ確認することを検討したいと思います。
7	これまでに統合したなごや小学校の新校舎の映像を観て、子どもたちの環境が良くなる感じがしました。	3校を統合して平成29年に完成したなごや小学校は、木材を使用した温かみのある設計で建築しています。 なお、映像は、本市ウェブサイトの「柴田小・千鳥小・白水小における取り組み」のページからご覧いただくことができます。

6 跡地活用・地域活動

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	既に統合している学校もあると思うので、跡地活用の事例があれば教えてもらいたいです。	学校跡地は敷地も広く、市にとっても貴重な資産になるものですので、資産の有効活用といった観点で、全市的に活用方法を検討していきます。 これまでの学校跡地は、公園、区役所、コミュニティセンターといった公的利用のほか、私立の保育園や学校といった民間企業による活用の事例がございます。

2	子どもたちの集う学校ですが、同時に避難所であったり地域の重要なコミュニティであったりします。そういった要望も考えながら、最終的に活用方法を決めてもらうことになるのでしょうか。 また、体育館や校舎、グラウンドはそのまま残るのでしょうか。	これまでの学校跡地は、いずれも指定避難所としての機能を維持して活用しています。地域のコミュニティという面では、例えば、民間企業と賃貸借契約を行う際に、地域団体が主催する諸行事での利用時は無償で使用させることといった条件を付しています。 柴田小学校、千鳥小学校の活用方法については、今後開催する新しい学校づくり懇談会などの場を通じて、地域の方のご意見も伺って検討を進めていきたいと考えています。 また、元の学校の校舎等については、建物を残して私立の学校として利用している事例や、建物を壊して区役所として利用している事例など、活用用途によって様々でございますので、今後、こういった用途で利用されていくかを踏まえ、校舎等を残すのか検討してまいります。
3	小学校は防災の拠点でもあるし、いろいろな意味で地域の大事な場所です。本当に地域として小学校に対する愛着は大きいので、そのような感情的なものも含めて、考えてほしいと思っています。	柴田小学校、千鳥小学校については、子どもたちの学び舎としての役割に留まらず、防災の拠点、地域コミュニティの拠点として、数十年に渡り地域のみなさまと共にあったことと思います。 一方で、柴田小学校、千鳥小学校ともにクラス替えのできない学年が生じる小規模校である中で、可能な限り早く子どもたちの教育環境を改善していく必要があると考えて、統合の取り組みを進めております。 統合後も引き続き、防災や地域コミュニティの拠点として地域のみなさまにご利用いただける形となるように努めてまいりますので、何卒、ご理解いただきたく存じます。
4	この地域には多くの外国籍の子どもたちや、一定数の不登校の子どもたちもいると思いますが、この子どもたちも含めて街づくりを進めていくという考えはありますか。	教育委員会では、日本語の指導が必要な児童生徒や不登校児童生徒など、多様な教育ニーズに対応したきめ細やかな支援を行うため、日本語指導講師や非常勤講師の配置、子どもたちが行きたくなる学校づくりやスクールカウンセラーの配置等の取り組みを行っています。 また、柴田小学校、千鳥小学校の跡地の活用についても、地域の特性等を踏まえた活用を検討してまいります。
5	統合によって千鳥小学校が無くなると、保護者世代の方の中には、恐らく小学校から遠いという理由で千鳥学区に住むことに懸念を感じる方もいると思います。	本市では統合した小学校がこれまで5校あります。そのうち、令和5年以前に統合した4校について、新校舎が完成した年度と令和7年度の人口を比較しましたところ、小学校がなくなった学区のいずれも人口が増加しています。 統合校が魅力のある学校となるような取り組みを進めるとともに、柴田小学校、千鳥小学校の跡地の活用についても、新しい学校づくり懇談会などの場を通じて、地域のご意見を伺いながら検討していきたいと思っています。

7 その他

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	これまでの統合校で、統合によって生じた想定外な課題などがあれば教えてほしいです。	例えば、3校統合を行ったなごや小学校（平成29年新校舎完成）の時は、まだ統合に関する事例が少ない中で、どのような準備が必要なのかを考えながら進めていかなければならず、苦労が大きかったという課題がありました。 ただ、それ以降、令和5年度に丸の内小学校、令和6年度にたかしま小学校が開校し、令和8年度、9年度にそれぞれ1校ずつの開校予定があり、統合に関するノウハウは蓄積されていくため、柴田小・千鳥小・白水小の統合を行う際には、なごや小学校の統合当時にあったような課題は解消されていくと考えています。
2	3校が1校になると、校長先生や教頭先生など、先生の人数が減ると思いますが、先生が減ったとしても、子どもたちのために十分な体制で学校運営をしてほしいです。	ご指摘のとおり、白水小学校の場所での統合後は、校長、教頭はそれぞれ一人ずつとなります。一方で、3校の時と比べると、1校あたりの教員数はクラス数が増えることに伴って増加し、より多くの教員と関わり合いながら子どもたちが学校生活を送るようになります。 また、統合後には、環境の変化に伴う子どもたちの不安を解消するため、スクールカウンセラーを通常より多く配置する予定です。
3	新しい学校が開校したとき、子どもたち自身やその環境がどのように良くなったか、地域住民へわかるように示していただきたいです。	統合した丸の内小学校、たかしま小学校にて、統合後に子どもたちと保護者へアンケートを取り、本市ウェブサイト上で公開しています。例えば、統合して人数が増えたことをどう思うかという項目では、子ども、保護者ともに8割以上で「良かった」や「どちらかと言えば良かった」と回答いただいています。 柴田小・千鳥小・白水小においても、統合後には同様のアンケートを実施し、結果を公表する予定です。
4	現在、千鳥小学校には通級指導教室があると思いますが、統合後も継続するのでしょうか。	通級指導教室は、通常の学級に在籍している児童に対して、各教科の指導を通常の学級で行いながら、障害の状態等に応じた特別の指導を行うものであり、現在、千鳥小学校に通級指導教室を設けています。 統合後の継続については、通級指導教室を必要とする子どもの人数等を踏まえて検討することになりますが、この3学区内で利用を希望する子どもが利用できなくなることはないよう、検討していきたいと考えています。

5	トワイライトスクールについて、時間の延長はできないでしょうか。	現在、3校はトワイライトスクールという制度で運用しており、開設時間が18時までとなっています。 本市ではこのほか、トワイライトルームという制度があります。こちらは開設時間の基本時間帯（無料）が17時までですが、利用料を支払い登録を行うことで、19時まで延長して利用ができます。 統合後、どちらの制度が適当かを担当部局と協議のうえ検討してまいります。
6	取り組みの内容や、説明会での質疑などが市民に公開されるとよいと思います。また、インターネットから意見を伝えることができるとういす。	本市ウェブサイトにて、地域説明会の資料や質疑のほか、これまで地域へお配りしてきた資料等を掲載していますので、ご覧いただければと思います。 ご意見につきましては、メールまたは本市ウェブサイト内のお問い合わせフォームからいただくことが可能です。メールアドレスやウェブサイトのURLは、本資料の下部をご覧ください。

お問い合わせ先等

名古屋市教育委員会事務局
教育環境整備課

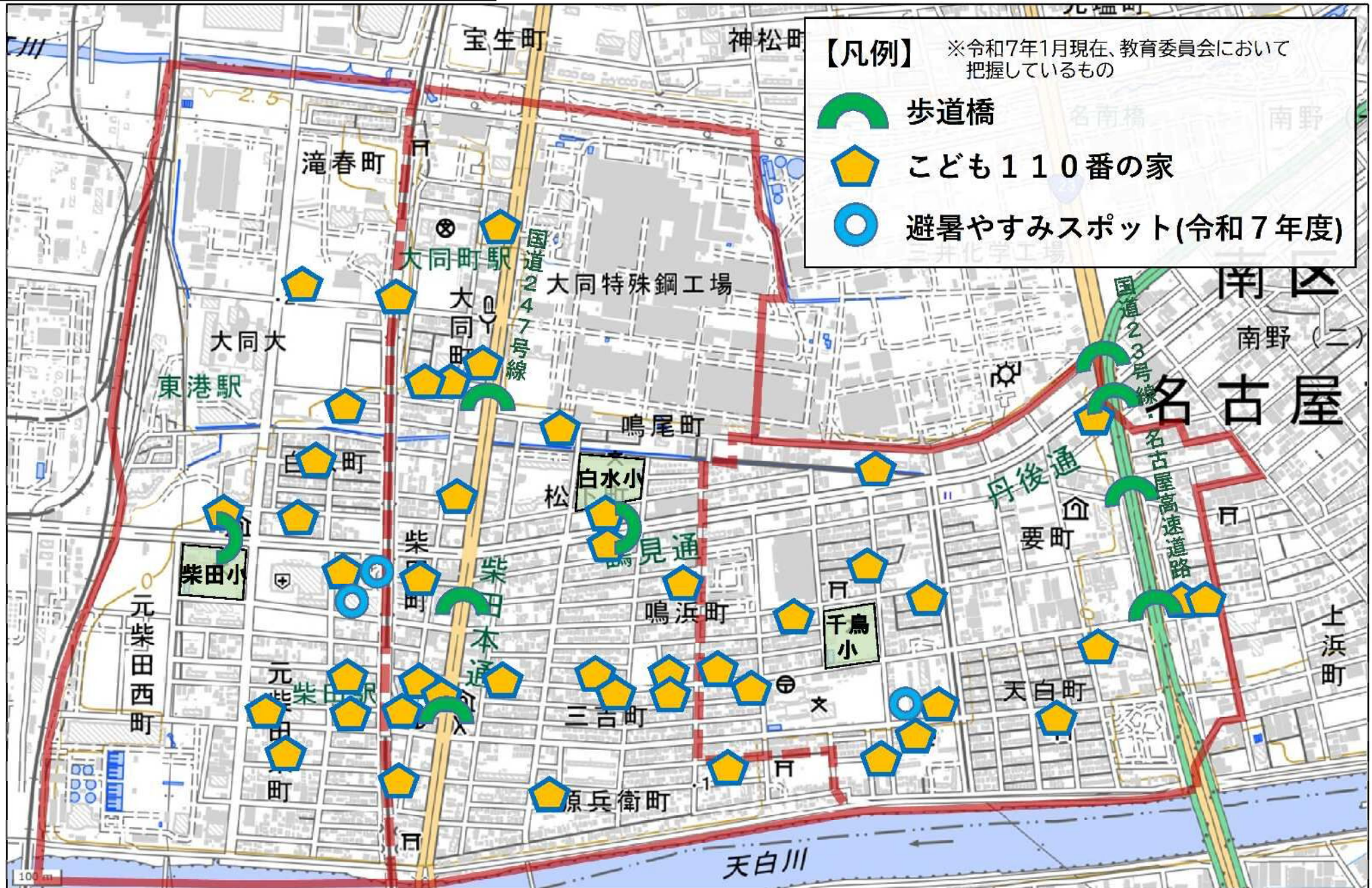
電話:052-972-3282 FAX:052-972-4176
E-MAIL:a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

名古屋市公式ウェブサイト

「柴田小・千鳥小・白水小における
取り組み」のページ

[統合に関する情報、説明会資料、おたより\(詳報\)などを掲載しています。](#)





※この地図は、地理院地図(GSI Maps)を名古屋市教育委員会教育環境整備課が加工して作成したものです。

3学区における指定避難所および指定緊急避難場所（津波）

おたより（詳報）別紙2

凡例：● 指定避難所 ▲ 指定緊急避難場所



※この地図は、地理院地図（GSI Maps）を名古屋市教育委員会教育環境整備課が加工して作成したものです。